



日本筆記具工業会

〒116-0013
東京都荒川区西日暮里2-30-6
TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692
発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会
URL <http://www.jwima.org>



書くことの大切さ、
楽しさを実感してもらいたい。

新年あけましておめでとうございます。

平成21年の新春を皆様方と共に迎えることができ、お慶び申し上げます。

昨年は新年早々、古紙配合率の乖離問題があり、食品をはじめとした産地偽装、諸々の薬物混入など日本の食品業界を揺るがす大きな事件が続き、それに加え原油高による原材料価格の高騰、さらに円高、株安による日本経済の混乱と目まぐるしい一年となりました。これは日本だけの問題ではなく、世界経済が混乱に陥るものとなり、輸出企業の業績見直しが日本経済の混乱に拍車をかけました。

筆記具業界は、依然厳しい環境にあります。ボールペン輸出などは、2006年度から回復の兆しがあり、先行きの明るさが見えてきましたが、ここにきて予想以上の円高及び世界的な景気後退、価格競争の激化などで厳しい環境が続くと思われまます。

さて、筆記具工業会の会長就任時に掲げた、世界に誇る高い技術を持つ会員同士の技術交流を図るために、昨年、6月11日に『第一回技術交流会』を企画開催致しました。会員各社より高評価を得て、『第二回技術交流会』の開催も決定されました。

「書育」啓蒙活動では、11月12日の会員研修会にメディア教育開発センター教授小野博先生を講師に招き、『書育』をテーマとした講演をいただき、会場いっぱいの聴講者で埋まりました。また12月2日に開催した筆記具工業会恒例の年末講演会には工学博士の牧敦先生による『書育～脳から知る人と環境』をテーマとした講演を聞くなど、今後も啓蒙活動を活発に繰り広げたいと思っております。これらの活動を継続させるために「書育検討小委員会」を設置して、それらを後押しするような「書育マーク」「書育HP」の作成など具体策を検討しております。

今年も具体的な活動を推進し、筆記具の普及に業界挙げて取り組み続けたいと考えております。世界に誇る日本の筆記具製造技術は、欧米においても高品質感が浸透し、安価な中国等製品に優る支持を得つつあります。これからも消費者の皆様が文字を書く絵を描くといった楽しさを知る「書育」を育て、特に若い人達に書くことへの抵抗感を見直してもらおう活動を繰り広げて参ります。「書く」という事は、記憶力の増幅、創造の原点だと思えますし、字は書いた人の心情を表わすなど、コミュニケーションとして有効な手段です。消費者の皆様は、書くことの大切さを知ってもらい、楽しさを実感してもらうことが必要だと感じております。

本年も工業会、業界の皆様と共に、信頼される文具業界を発展させるべく、より一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げ、新春のご挨拶といたします。

平成21年1月
日本筆記具工業会 会長 石川 真一

「書育」をテーマに2回の講演会開催

石川真一会長が本工業会の活動方針の柱のひとつとして力を注いでいる「書育」に関する2つの講演会を開催しました。11月に開催した会員研修会では、教育分野から小野博先生（メディア教育開発センター教授）を講師に招き、書いて覚える「書育」の重要性を語っていただきました。年末の講演会では脳の機能という分野から牧 敦先生（工学博士）を講師に招き、筆記と脳の機能を光トポグラフィと呼ばれる画像計測の方法で解き明かしていただきました。両講師は工業会が推進する「書育」の重要性に共鳴してくださると同時に、コミュニケーション手段が多様になったいまだからこそハンドライティングを大切にすべきだと結んでくださいました。

書いて覚える、書いて身につける学習法が子どもたちには面白い授業。「書育」の大切さがここにある。

講師 小野 博先生（メディア教育開発センター 教授） テーマ「書育のすすめ」
 会員研修会 11月12日 会場・上野精養軒

小学生から大学生までの学生が受けたい授業のキーワードは「面白い・わかりやすい・役に立つ」。一方、教員が第一に重視するのは「役に立つ」。その結果、子どもたちにとって「授業は面白くない」ものになってしまうのが現状。子どもたちは学力の向上が実感できる教育を望んでいる。

子どもたちの学習意欲を刺激する効果的な方法は、目に見える結果を出すこと。例えば、漢字を繰り返し書き、20個の漢字を学習させる。翌日にテストをして「わたしは 個できた」と努力の成果を実感させる。これが「勉強が面白くなる方法」だ。つまり伝統的な書いて覚える、書いて身につける学習法が子どもたちには面白い授業なのだ。「書育」の大切さがここにある。（抜粋）



小野 博先生（工学博士・医学博士）

1971. 慶応義塾大学医学部耳鼻咽喉科入局特別研究員
 / 1973. 慶応義塾大学医学部耳鼻咽喉科助手 / 1981
 東京学芸大学特殊教育研究施設助教授 / 1990. 学入
 試センター研究開発部教授 / 2000. メディア教育開発
 ンター研究開発部教授 大学入試センター研究開発部教授
 2001. メディア教育開発センター研究開発部教授 / 2004
 独立行政法人メディア教育開発センター研究開発部教授

「手書き」は全身で書いている。脳への負荷が高い。

「書育」運動はこの観点を重視していくべきだと考える。

講師 牧 敦先生(株)日立製作所 基礎研究所 主管研究員/工学博士)

テーマ「書育～脳から知る人と環境」

会員研修会 12月2日 会場・上野精養軒

約40年ほど前に出版された「知的生産の技術」(梅棹忠夫著)の中でタイプライター書きは楽だという興味ある発言があった。じつは「手書き」というのは手で書いているのではなく全身で書いていることがわかっている。ゆえに手書きは疲れる。この本が出版された当時はワープロがなかったが、以降、ワープロ、パソコン、モバイルなど、楽に書く道具が次々と出現し、人々は手書きから遠ざかっていった。

「書字」と脳の関係は光トポグラフィの分野でも古くから関心が持たれてきた。筆ペン、ボールペン、キーボード、携帯電話で文章を作成する状態を比較すると、キーボードの場合は脳の後頭葉の働きが停止していることが際立った。後頭葉が楽をしていることがわかる。

ペンで書字したとき脳は、音声を聞く、それを理解する、ペンを動かす、書いた字をよく見て読む、漢字の読み書き等の変換を同時並列にやっていることがわかる。一方、キーボードで書字したときは、音声を聞く、理解する、までは同じだが、以降、書いた字をよく見て読む等の働きをする後頭葉が働いてないことがわかる。



Eメールなどで誤字脱字が多いのはそのためだ。手書きは脳に負荷が高いことがわかる。「書育」運動はこの観点を重視していくべきだと考える。

さて、自分は手書きが好きで、最近鉛筆をよく使っている。他にサインはボールペン、またデジタルペンも研究などで使っている。デジタルペンで書字したものを全員が共有することで、学習能力が高まることもわかってきている。

(抜粋)



牧 敦先生(工学博士)

1990.株式会社日立製作所 中央研究所入所 / 1997.慶應義塾大学より博士(工学)授与
2000.日立製作所 基礎研究所へ異動 / UNIVERSITY COLLEGE LONDON 客員研究員
/ 2000.鹿児島大学非常勤講師 2005.日立製作所 基礎研究所主管研究員小泉戦略
プロジェクトサプリーダー / 2006.東京大学 先端科学技術研究センター客員研究員 / 2008.日立製作所 基礎研究所主管研究員人間指向技術推進プロジェクトサプリーダー

2008年懇親会実施

講演の後、牧敦先生と講習会で講演いただいた小野 博先生も迎えて参加者全員で記念撮影を行いました。引き続き会場を改め懇親会を開催しました。来賓に経済産業省(日用品室、環境生活標準化推進室)様、(財)日本文化用品安全試験所様、(社)全日本文具協会様をお迎えし、また多数の文具専門紙誌様を加え、総勢約100名が集いました。石川真一会長の開会挨拶に続き、堀江圭馬副会長の乾杯の音頭で開会、なごやかに懇親を深め、今井正芳副会長の中締めをもって2008年の工業会の活動を締めくくりました。



第2回 技術交流会 開催決定

平成21年6月17日(水) 13:30 ~ 16:00 共和フォーラムにて

「ビジネスを通じてホンネで交流する場を創設したい」との石川会長の方針からスタートした技術交流会。昨年6月に第一回を開催し、見学企業の7割が「説明内容に満足」、出展企業の全社が「お客様の反応が良かった」と絶賛。一日の開催で計178名の来場者を集める成功を収めました。

第2回開催への期待を受けて開催概要が早くも決定しました。日時は6月17日(水)午後1時半から、会場は旧共和会館の共和フォーラムです。用意した会場スペースは前回の約2倍、見学・出展企業共々第一回を大幅に上回ると予想されています。ご期待ください。



第2回 JWIMA技術交流会

会期 2009年6月17日(水) 13:30 ~ 16:00

会場 浅草橋「共和フォーラム」

< 2008 第一回 JWIMA技術交流会アンケートより >

来場者数: 見学企業121、出展社38、スタッフ12、業界紙7、合計178名

【見学企業】回収78名	
自社商品開発に取り入れたい技術	見つかった(12%)、検討できるものはあった(63%)
説明内容は満足できたか	満足できた(69%)
今後の実施について	毎年実施(74%)、隔年実施(23%)
改善要望	会場をもう少し広く(11名)、出展社を増やして(8名)

【出展企業】回収12名	
お客様の反応は	良かった(100%)
商品PRの場となったか	なった(100%)
展示スペースは十分だったか	十分だった(83%)、足りなかった(17%)
今後の実施について	毎年実施(75%)
改善要望	会場をもう少し広く(3名)

第2回 JWIMA技術交流会の見学・出展の詳細につきましては事務局までお問合せください。

迫る、REACH規則をわかりやすく解説

経済産業省製造産業局 化学課 機能性化学品室 小林由佳さんを講師に迎えて
JWIMA研修会 2008年11月12日実施 上野精養軒にて

すべての人が健康で豊かな地球の恩恵に預かりながら快適な消費生活を発展させていけるために化学品使用の「ルール」を設けようと欧州の人々が立ち上がりました。それが「欧州の新たな化学品規制（REACH規則）」です。この新たな規制を正しく理解し、卒なく諸手続きをすすめたいとする会員の要望を受けてJWIMA定例の研修会のテーマに「REACH規則」を取り上げました。経済産業省の小林由佳さんに多忙な時間を頂戴してご講演いただきました。概論と手続きの方法、知識を得るための手段、相談窓口など、実践的でメーカーの立場に立った解説をしていただき、事後のアンケートでは7割の会員から「よく理解できた」と評価を得ました。



欧州玩具安全指令改正

施行は09年官報告示から2年後

2008年12月18日、欧州議会は「玩具安全指令」改正案を採択しました。施行は2009年官報告示(2月～4月の予定日)から2年後です。化学物質の規制に関しては、更にその2年後です。

<玩具安全指令の改正概要>

金属規制が、現行の8元素から19元素に拡大。また、基準値が大幅に強化される。

【新たに追加される物質】アルミニウム、ホウ素、コバルト、銅、マンガン、錫、有機錫、ニッケル、ストロンチウム、亜鉛

【基準値の強化】

	現行 (mg / kg)	改正 (mg / kg)
アンチモン	60	45
ひ素	25	3.8
バリウム	1000	4500
カドミウム	75	1.9
クロム	60(トータル)	37.5(三価) 0.02(六価)
鉛	90	13.5
水銀	60	7.5
セレン	500	37.5

特定の香料(アレルギー物質)の使用禁止、またはラベル表示の要求。

CMR物質(発ガン性・変異原性・生殖毒性物質)の使用禁止。

技術ファイルの作成。(それには製品中のすべての物質及びそれらのパーセンテージを記載した一覧表が含まれる。)

詳しくは事務局までお問合せください

「ものづくり日本大賞」応募受付開始

～経済産業省からのお知らせ～

経済産業省は、日本の「ものづくり」において 造現場を支える人々を表彰する第3回「ものづくり日本大賞」応募者を、2009年1月5日(月)から全国で募集開始しました。応募締切は本年3月6日必着です。

<概要> 「ものづくり日本大賞」とは、日本の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくために経済産業省、文部科学省、厚生労働省および国土交通省の4省連携により、2005年8月に創設され、2年に1度開催している表彰制度です。

<目的> この表彰制度は、製造現場で「ものづくり」の中核を担う中堅人材、伝統の技を支える熟練人材および将来を担う若手人材を対象に内閣総理大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞を授与するものです。この制度を通じて、国民的に「ものづくり」を盛り上げていく機運を高め、「ものづくり」に携わる方々が誇りを持って仕事に取り組むことのできる社会、次代を担う若者や子供達が尊敬や憧れを抱いて、将来の仕事として「ものづくり」に関心が持てるような社会を目指していきます。

<対象> 表彰の対象は、「産業・社会を支えるものづくり」では個人とグループ。応募は、ものづくり日本大賞応募専用のホームページにて。

(<http://www.monodzukuri.meti.go.jp/>)。

20年度第3四半期委員会活動報告 (平成20年11月～12月)

委員会・部会開催状況 (2008.11.1～12.31)

<総務 関係>

- 1 1.1.7 書育検討小委員会(第4回)
 - ・「書育」ビジュアル化の検討
 - ・「書育」HPコンテンツ案について
- 1 2.9 書育検討小委員会(第5回)
 - ・「書育」HPコンテンツ案について
 - ・「書育」活動の今後の展開について
 - ・その他

<流通 関係>

- 1 1.1.3 お客様相談窓口連絡会(第3回)
 - ・各社のお客様対応事例について
 - ・不当要求に対する対応の共通化(業界統一)検討

<技術国際 関係>

- 1 2.1.8 マーキングペン部会(第4回)
 - ・JIS S 6037(マーキングペン)5年見直しについて
 - ・マーキングペンの今後の検討課題について
 - ・ISO 11540(安全キャップ)定期見直しについて
 - ・BS 7272-2(安全尾栓)改正に伴う対応について
 - ・その他

<JIS改正 関係>

- 1 1.1.9 ゲルインホ-ルペンJIS本委員会(第1回)
 - ・JIS S 6061「ゲルインホ-ルペン及びレフィル」改正原案の審議
- 1 2.1.0 ゲルインホ-ルペンJIS分科会(第4回)
 - ・JIS S 6061「ゲルインホ-ルペン及びレフィル」の見直しについて
 - ・ISO規格定期見直し案件について

<国際規格適正化事業 関係>

- 1 1.2.0 国際標準提案事業委員会(第2回)
 - ・ゲルインホ-ルペンISO提案経過報告について
 - ・EWIMA技術委員会の報告について
 - ・ISO 5年見直しの投票内容について

<全文協との共催 関係>

- 1 1.2.5 知財プロジェクトリーダー会議

1 2.1.7 合同知的財産部会(第4回)

- ・「税関の差止申立制度の説明と申請書の書き方について
- ・JETRO政策課題研究会への説明報告
- ・H21年度知的財産部会の課題とテーマリーダー、サブリーダー選出について
- ・事務局からの報告と確認事項
- ・日本ベアリング工業会の「模倣品対策活動」について

理事会 開催状況 (2008.11.1～12.31)

1 2.2 理事会(平成20年度 第4回)

- ・講演会・年末懇親会について
- ・08年カタログ実態調査報告について
- ・「書育」啓蒙活動について
- ・新規会員加入の件
- ・2007ドイツ筆記具統計について
- ・その他

お知らせ

「第8回通常総会」は5月18日(月)午後5時から上野精養軒にて開催します。例年のとおり総会終了後に懇親会を実施します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2009年1月1日から「修正液」と「修正テープ」に品目コードが設定されました。品目コードの新設によって正確な貿易統計が整います。輸出入の際には必ず当該コードをご使用ください。

【輸出】

3824.90-100

小売用の容器入りにした修正液

3824.90-200

修正テープ

【輸入】

3824.90-991

小売用の容器入りにした修正液

3824.90-992

修正テープ